

<発言者>	<項目・内容>
委員長	<p>1 委員長挨拶</p> <p>「先日内閣改造が行われ 5 人の女性閣僚が登用されたが、その際の『女性ならでは』という発言が話題になっていた。社会的な男女の役割についての固定観念がまだある一方で、若い世代はだいぶ変わってきているように思う。また、諸外国の感覚とも随分と違いがあるように思う。男性の育児休業についても、どうしても数字がよりどころとなる面があるが、それぞれの家庭事情によって、本当に必要な場合にしっかりと取得できるようになると良いと思う。」旨の発言があった。</p>
警察本部	<p>2 議題</p> <p>公安委員会宛て苦情の申出</p> <p>公安委員会宛て苦情の申出について説明があり、原案のとおり決定した。</p>
警察本部	<p>3 報告</p> <p>(1) 島根県警察サイバーセキュリティ競技大会の開催</p> <p>「県民からのサイバー空間に関する被害や相談に的確に対処するため、職員の自己研さんを促すとともに、県警全体の対処能力を向上させる目的で、10月 3 日、警察本部及び各警察署において島根県警察サイバーセキュリティ競技大会を開催した。出場チームは全17チームで、警察本部は、警務部、生安部、刑事部、交通部及び警備部の 5 チーム、警察署は、全警察署の12チームであった。競技方法は、サイバーセキュリティに関する知識や技術をオンライン形式で競い、制限時間内により多くの得点を得たチームを勝者とする C T F 方式を採用した。設問内容は、サイバー事案に関する知識、インターネットその他高度情報通信ネットワークに関する知識、サイバー事案対処に関する知識や技能であった。大会結果は、優勝は刑事部、準優勝は警務部、第 3 位は交通部であった。本競技大会で使用した問題については、今後、執務資料を発出するなど職員の知識向上に活用する。」旨の報告があった。</p>
委員	<p>〔意見〕「大会を通じて質の向上が図られるので、今後も続けてもらいたい時代のすう勢に答えてほしい。また、大会に参加しない職員にも知識を広め、組織全体の底上げを図ってほしい。」</p>

委	員	〔意見〕「切磋琢磨して意識を高めてもらうとともに、広い知識を身につける機会をつくってほしい。」
委	員	〔意見〕「大会を開き、技術を高めることに意義があるので、今後も続けてほしい。また、SNSに安易に情報を上げることの危険性を県民に啓発したり、民間と連携して研修を進めることも必要と感じた。」
警 察 本 部		<p>(2) 国立大学法人島根大学における薬物乱用防止啓発キャンペーンの実施</p> <p>「全国的に、大学運動部員が大麻所持等で相次いで検挙されるなど、学生スポーツ界における大麻事犯のまん延と若年層の大麻乱用が深刻化している中、大学生を中心とした若年層に対し、大麻乱用防止を直接呼びかけるため、島根大学の学内に設置されたデジタルサイネージを使用した啓発動画放映開始に併せ、島根大学と連携して、10月11日に、島根大学松江キャンパスにおいて、薬物乱用防止啓発キャンペーンを実施した。参加者は、警察側は刑事部組織犯罪対策課員、生活安全部生活安全企画課員、少年女性対策課員、松江警察署生活安全課員であり、大学側は、島根大学防犯ボランティア、教育・学生支援部学生支援課職員であった。実施内容は、大麻乱用防止啓発チラシ等の配布、薬物乱用防止広報車を活用した啓発動画の放映、薬物サンプル・大麻乱用防止啓発パネルの掲示であった。今後は、同大学学生支援課と協議し、学生が使用するモバイル端末上の学習管理システムに啓発動画を掲載する予定である。」旨の報告があった。</p>
委	員	〔意見〕「よくできた動画である。大麻は若年者が遊び心で手を出す傾向にあると思うので、若年者を中心に啓発に取り組んでもらいたい。」
委	員	〔意見〕「警察だけでは全県下での啓発は難しい。民間団体等に資料を提供するなどして、連携して啓発を進めるのが良いと思う。小さい時から正しい知識を身につけさせることが重要である。」
委	員	〔意見〕「小中学校では禁煙教育が成果を上げており、小さい頃からの教育が有効である。大学生だけでなく、小中高にも教育をする必要があるし、要望のある学校だけでなく、満遍なく啓発していく方法や、より低年齢向けの動画もあると良いと感じた。」
警 察 本 部		<p>〔説明〕「現在、小学校、中学校、高校において、薬物乱用防止教室を積極的に開催している。今後も、時代に応じた、また受講者の年齢に応じた分かりやすい内容で実施していく。」</p>
警 察 本 部		<p>(3) 第53回全国白バイ安全運転競技大会結果</p> <p>「第53回全国白バイ安全運転競技大会が、10月7日から10月9</p>

		<p>日までの3日間、茨城県ひたちなか市の自動車安全運転センター安全運転中央研修所において開催された。大会の目的は、白バイ乗務員の運転技能を向上させ、受傷事故の絶無を期すとともにその士気の高揚を図り、もって道路交通の安全の維持に資することである。大会成績は、男性の部は、団体第二部で36道府県中第3位であった。この大会に出場することにより、白バイ隊員のみならず、バイクを運転する職員に対する運転指導・訓練、殉職受傷事故防止教養の実施、災害現場等におけるオフロードバイクでの迅速・的確な活動、警察官募集活動における広報・アピール効果が期待される。」旨の報告があった。</p>
委	員	<p>〔意見〕「日頃の研さんと努力のたまもので、心より敬意を表する。県民として頼もしくありがたく思う。今後も努力を続けることは大変だが、成果につながることを期待する。とりわけ警察官募集では、白バイに憧れを持つ人が志すきっかけになると思うので、大いに活用してほしい。」</p>
委	員	<p>〔意見〕「県大会で活躍した選手が全国クラスであることを改めて感じた。白バイに憧れや関心を持つ人も多いので、こうした活躍の場を県民に示すことができる場があると良い。」</p>
委	員	<p>〔意見〕「素晴らしい結果で日頃の訓練の成果であると思う。技術を身につけることが、安全な職務遂行につながるので、今後も訓練に励んでほしい。」</p>
警 察 本 部		<p>(4) 「沿岸警備の日」における取組状況</p> <p>「本県は1,000キロメートルを超える長い海岸線を有しており、過去には集団密航事件や北朝鮮から木造船で漂着した男性4人の上陸事案が発生するなど、沿岸警備の徹底は重要な課題である。県警察では、海上保安庁等の関係機関と連携し、警戒活動や不審者、不審車、不審船、不審物発見時の通報を呼び掛ける取組を行っているところ、県警察独自に10月2日を『沿岸警備の日』に指定し、沿岸部を管轄する各警察署では、この日を中心として、沿岸協力会や関係機関と連携した沿岸パトロール、訓練、広報活動等に取り組んでいる。主な取組として、出雲署においては高校生を沿岸サポーターに任命、また、隠岐の島署と浦郷署が中心となって沿岸不審者、不審船対応訓練を実施した。」旨の報告があった。</p>
委	員	<p>〔意見〕「長い海岸線と原発が立地するという島根の地勢上の特徴を踏まえ、今後も関係機関と連携しながら積極果敢に取り組んでほしい。また、こうした取組をもっと報道機関が取り上げるよう積極的にPRしてほしい。」</p>

委 委	員 員	〔意見〕「漂着物の問題も含め、陸上からは見えにくいものもあるので、船を持つ人からの協力を得ることが効果的である。連携を取りながら取組を進めてほしい。」 〔意見〕「海岸線の長い県なので、もう少しこうしたことに関心を持たないといけないと感じた。」
------------	------------	--

4 本部長総括

本 部 長	長	「大麻に関して、大麻取締法の改正案が臨時国会に提出された。その中身は、現在の法律では、大麻の所持や譲渡し、譲受けは禁止されているが、使用は禁止されていないので、医薬品としての使用は認める一方、不正な使用について麻薬と位置づけて禁止するものである。規制が強化されることによって乱用拡大抑止の効果が期待できる。県警察としても今後の動向に注視していきたい。」旨の発言があった。
---------------------	---	---